

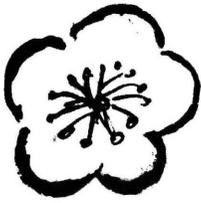
第三号

はまゆり

越見の海光

少が故里

鶴沼



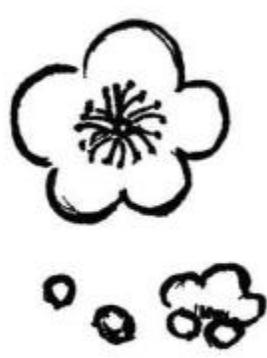
鶴沼の語

第三号

はまのうらと

梅見と海光

水が故里



鶴沼



鶴沼古語



## 鵠沼公民館まつりにみる生涯教育

人間の生きていく究極の目的はいつの世にも解決することのできない永遠の課題であるにしてもそれを解くため人間はいつも考え続けてきた。そしていつしか教育とゆう分野が生まれる。

しかし人間の考え出したものはいつしか人間の手を離れ巨大化し人間に襲いかかるマンモス怪獣になる。

教育の現状を一言で集約すればこんなものであるうか。

しかし鵠沼公民館まつりのプログラムが出来上がった時私はたと膝を打った。このマンモス怪獣がいかに美事に飼いならされているのかと、

抽象論はこの辺までとしてこのプログラムを分析しつつこの論旨のテーマである生涯教育について論じてみよう。

この場で論じられる教育には学校教育は入っていない。しかしこの学校教育との接点をとらえるものとして「地域の教育の環境を考える」シンポジウムを柱とした。教育とゆう怪獣はなかなかとらえがたく論ずれば百家百言となりかつ一般論、抽象論に陥り易いがこれをまず

地域、特に小さな一中学区単位（もっとも鵠沼地区は鵠南小学校の関係から二中学となるが）から論じ展開していくことにしている。この一中学区の中だけについてもいかに問題が多いかこのシンポジウムにかける期待は大きい。

次に音楽の広場を特に広げて子供達との接触の場＝＝

音楽は世界共通の言葉であると共に人生共通の言葉である。子守唄は

赤ん坊にとつてのみではなく少年少女にとつても老人にとつても安らぎの唄なのである

特に最近、四季の詩、青春時代等若者の青春の哀感をこめた流行歌が少年

少女の間にも多く歌われているのを考え単なる音楽発表会にしないで合唱

祭、それもリクエストにより全員合唱祭の形式を採りあげている。

市民が築いてきた音楽グループが多い鵜沼地区だけにこの成果は多大のも

のとなろう。更に謡曲、詩吟、仕舞等のサークルの活動も楽しい

さて、美術活動の面については市民美術会、鵜沼洋画会 写真協会、木彫

木版、すみ絵 書道と誠に多彩でありこれのみで鵜沼地区に春來訪の

感がある。

俳句、短歌、百人一首、茶道と日本の芸術もこゝに渾然一体となり雰

気を盛上げている。ひそやかな和裁ブームと言われているが和裁サークルの展

示会も鵜沼地区の環境を物語る一齣となろう。

料理サークルの活動がPTA活動の一環としてとらえられているところに学校教育

社会教育、家庭教育の素晴らしさがありしかも固苦しくないとところに一層のよさ

がある。語学も他の地区では考えられないような英語スペイン語が紹介

され、学習資料コーナーを持つ。囲碁大会があればチェスもある。疲れたなら

ば煎茶あり紅茶ありオデンありおしる粉、クッキーあり。

家庭電器器具の修理位は覚えておこうと東京電力コーナーも設置した。

人生にとって健康がなければ何も無い。健康相談に力を入れ軽体操からダンスもしよう。ガールスカウトのフォクダンスから大人のフォクダンス、社交ダンスにも・・・

そして過去の鵠沼をさぐり現実をしつかりと受けとめ未来の鵠沼を創造していくために、「鵠沼を語る会」が統轄しまとめ記録し分析し企画していこう。

教育とは何か、人生とは何か、人生何をなすべきか、我々は何をなすべきか、そして「我々は今なにをなすべきか」

冒頭に述べた人間の生きていく究極の目的が永遠の課題であるにしても「我々は今なにをなすべきか」こそ数千年にわたってなされてきた人間の哲理でありそれが必しも我々の手にとどかぬところにあるのではなく、この公民館まつりの一つ一つに輝きを放っていることに喜びを感じ地域環境こそ人間生涯教育の師である事を痛感している次第である。

伊藤 昌

(鵠沼を語る会リーダー)



鵜南

サッカークラブ

神奈川県少年サッカー選手権大会

二年連続の優勝

鵜沼地区の鵜南小学校（鈴木英一郎校長生徒数六百人）の六年生で構成する鵜南サッカークラブAは昨年に引き続き神奈川県少年サッカー選手権大会で優勝しました参加チームは九十九でした。準決勝の相手は明治チーム。今年三度闘って三度とも勝てなかった相手でした。しかし最後の戦いで一方的に攻めまくり二・〇で快勝しました。決勝は鎌倉のいづみキッカーズでしたが一・〇で楽勝しました。あまりあっさり勝ってしまったので選手も先生も応援団もしばらくボンヤリしたほどです。それだけ今年の鵜南クラブは強かったのです。今年に入ってAチームは十勝

無敗一引分、Bチームも四勝一敗一引分でした。

しかし十二月までは暗く厳しくつらい一年間でした。チームはスランプ続きメンバ―は病気、怪我続きでいつも最高の力を出せませんでした。

十二月末までのリーグ戦での成績はAチームは三勝二敗Bチームは二勝二敗一引分が入賞などはるか遠いものでした。

しかし最後の特訓を年末、年始め冬休みにかけてしました。三十一日一日しか休みませんでした。二日、三日と湘洋中学サッカー部の胸をかりました。

AもBも強くなり連日ぶつかり合いの一月月でした。県大会でBチームは三回戦で厚木ゴールブランダース（四位）に破れましたが全メンバーが揃っていたら決勝まで進めたでしょう。リーグ戦最終戦とともに逆転勝、Aは準優勝、Bは三位入賞となりました。校長先生はじめ佐藤、下村、坂本先生の熱意そして地域の人達の応援がこの二年連続の優勝につながったのです。

（いとう）



## 鵜沼の歴史 相模国土甘郷総社皇大神宮

藤沢市鵜沼神明町鎮座 鈴木繁次郎提供

第六十代、醍醐天皇の御代延喜式の撰上によって延喜五年（九〇五年）現在の鵜沼、辻堂 大鋸、西富が合併され相模国土甘郷となる也郷の総社に列せられる也、以来相模国土甘郷総社神明宮と称し、あまねく人士の尊崇を集めた。

また、永久五年（一一一七年）に到って鎌倉権五郎景正が新領大庭莊を伊勢神宮の御厨（神領地）として寄進してからは大庭御厨の領域、即ち東は俣野河（いまの境川）西は神郷、寒川神社神領の寒川郷に至る地域、また北は、大牧崎（いまの菫蒲沢のあたりで藤沢市最北端）

南は鵜沼、茅ヶ崎の海辺の諸村を包含する区域、つまり境川と小出川とは含まれたこの広大な領域の総鎮守と定められ社格も高く、伊勢神領、御厨領域内の数多の神社を代表し総括する総社として崇敬された。

これより先、第五十三代、淳和天皇の御代天長九年（八三二）

御社殿造立の記録があつて勸請年月は不詳であるが  
創建の極めて古いことは明らかであり、更に天喜三年（一〇五五年）  
元亨二年（一一三二年）天正十三年（一五八五年）と再建造立  
を重ねて現今に到っている。

御祭神は天照皇大御神、相殿に天手力男命、天太王命  
天児尾根命宇受売命、石凝姥命である。

天喜年間 八幡太郎義家奥州征討の途次祈願奉幣あり  
寿永三年（一一八四年）那須与一宗高は、屋島にて扇の的を  
射たる弓一張と残りの矢を奉納、併せて領地那須野  
百石を朱印にて寄進し、代々の領主の崇敬奉祀も鄭  
重であり

伊勢神宮大庭御厨総鎮守、土甘郷総社神明宮の盛  
名高く、鎌倉の鶴岡八幡宮府中の六新宮と並び称  
せられたが延喜年間の盗難により古記録等を失った。  
後に至り、明和二年（一七六五年）六月十七日領主布施孫  
兵衛尉頼路参籠し神願奉幣あり白絹御戸

張に天照皇大神宮と謹書奉納し明治維新まで毎年奉幣を怠りなく続けられた。

明治元年九月征東大総督一品中務御有栖川宮熾仁親王御東下の砌神明宮の御染筆して奉納せらる。

明治六年十二月村社に列せられ、同四十年四月勅令第九十六号神社に指定せらる。

境内神社に、豊受稻荷神社、巖島神社、石神社、山王社がある。境内攝社として伊勢宮御嶽神社、秋葉神社

境外攝社として鶺鴒沼堀川地区に太神宮がある。

なお、現今、神苑に大樹繁茂し烏の群棲したことがあるので、人呼んで烏森神宮、烏森神明宮などと俚称されることがある。例祭、八月十五日から十七日まで、八月十七日の九輦の人形山車の参進は、県内随一の盛観とされている。



## 地引網雑感

### 地引網こぼれし魚に秋の影

これは誰の句でもない私の句である。鵜沼海岸にもまだ二、三艘の漁船が残り地引網が残っている。

地引網はあまり春や冬にはやらない。夏朝早く網を下し、二、三時間たってから、左右に人がわかれてエンやらやエンやらやと引く。

最近魚の数や種類がめっきり減ったため地引網の回数が少なくなってしまった。昨年の夏小学校のPTAで海岸清掃の後で数百人の子供達で引いたが採れるのは小魚ばかりでゴミやビニールの袋ばかりで幻滅の悲哀を味わった。

私が少年時代、昭和十二、三年頃だったがとにかく地引網を引くとバケツに一ぱいはお礼だとくれたものである。

特に、サバ、イワシ、イカはおいしかった。

海は青く、砂は白く植物も魚も新鮮で美しくしかった。

その美しくしさそのものが、人間の心も美しくしていたような気がするのである。



(いとう)

私と鵜沼 川上清康

私の本家は藤沢の旧東海道筋にあり祖父川上九兵衛が明治二十年頃三觜小三郎氏、伊藤将行氏らと相談つて、鵜沼の開発にのりだし鵜沼館をたてた。(藤沢通史記載)

これが、鵜沼発展の基礎と聞いていゝる。尚、私の母の実家中川家一族が、この鵜沼館に遊びその縁で両親が結ばれ後に中川家が鵜沼海岸に別荘を立てた。子供の頃、父の仕事の関係上東京に住んでいたが、右の様な関係で藤沢鵜沼は特に因縁深く常に遊びに来ていた。藤沢の本家から祖父に伴われ鵜沼の家を訪ねる時は六本松

(本町小学校の傍)を通り今の高松医院の附近を経て歩いたものである。

道々、昔を懐かしみ語ってくれた祖父の思い出話は今も耳に残っている。

東京から直接来る時は江ノ電鵜沼駅から松林の道を通つて郵便局の付近から有田肉屋、魚勝、今のバス停附近の雑貨屋が思い出に残っている道筋である。

鵜沼の中川別荘は夏になると孫達の合宿所であり、漁夫の豊さんに伴われ皆で泳ぎに行ったものである。帰るとはねつるべで井戸水を汲み風呂をわかして皆で入ったが時に中川の祖父好みで豊さんが桶に海水を汲んで来て塩湯を

わかった事もあった。

その頃の海は真に綺麗で片瀬迄は砂丘と松林が続き辻堂に近い方では防風が一ぱい採れたものである。又松林には松露を採りに行き到る処撫子や月見草が咲き赤い蟹が庭先や台所口をはい廻っていた。引地川では勿論赤別荘附近の掘割でも鮒が釣れた。その頃公民館附近に旧の尼寺があり美しい蓮池を見ながら本堂で木魚をいたづらして叩いた思い出もある。夏祭りには村芝居が行われ今の鵜沼銀座通り附近の空地の小さい栈敷で見物し帰って子供達で真似をしたものである。その後、

昭和四年に

小田急が開通し鵜沼は急速に発展した。

父が郷里に隠退すべく昭和十五年本鵜沼に家を建て私も終戦後こゝに移り住んだ。

その頃でも本鵜沼一帯は畑地で本鵜沼駅まで畑の真中を通りぬけて行ったものである。

鵜沼洋小学校が出来、鵜沼中学校が出来、本鵜沼も漸く街らしくなってきた先に開けた海岸の銀座通りと繁栄を競う様になったが

美しい海岸や松林、松露、

撫子、防風に惚れた懐かしい鵜

沼の思い出は時と共に過ぎ去っていつてしまった。せめて「鵜沼を語る会」で皆が昔の鵜沼を語り合いたいものである。

昭和五十二年二月二十五日発行

藤沢市鵜沼海岸二丁目一〇番三四号

藤沢市立公民館内

鵜沼を語る会

電話(36)七四三一